18 年薬学部一般入試分析

「６年制化」が影響!? 薬学部の志願者が激減

- 国公立大７％減、私立大 31%減。医・農・医療などに流出 -

平成 18 年 4 月　旺文社 教育情報センター

18 年度入学者から薬剤師養成コースが学部６年必修となり、初年度の入試を迎えた薬学部系統。４月中旬現在までに発表された志願状況をみると、国公立大は７％減、私立大に至っては 31%も減少した。他の学部系統と比べて際立った人気ダウンの背景に何があるのか、検証を試みた。

◆“薬学部バブル”一気に弾ける

18 年入試を振り返ると、国公立大一般選抜の確定志願者数は前年比１％減、私立大一般入試の志願者数（３月中旬現在：206 大学集計）も前年比２％減となった。大学受験生数の６％減（17 年 69.9 万人→18 年 65.7 万人。18 年は旺文社推定）、浪人の激減（センター試験志願者のうち、浪人は前年比 16%減）を考えると、いずれも志願者減は小幅に留まったといえる。

その中で、最も劇的に変化したのが薬学部であった。国公立大では７％減、私立大に至っては 31%減と、他の学部系統に比べ突出した激減ぶりを示したのだ。大学別の志願状況一覧（ｐ.６以降を参照）をみると、私立大薬学部では半数以下に落ち込んだケースも珍しくない。志願者増は同志社女大－薬(49%増)のみ、ほぼ前年並みを保ったのも武蔵野大－薬、摂南大－薬くらいで、あとは伝統校や最近の開設校を問わず、軒並み大幅に減少している。開設して間もない薬学部の中には、４月に入ってから臨時募集を行い、定員確保に奔走したケースもみられた。

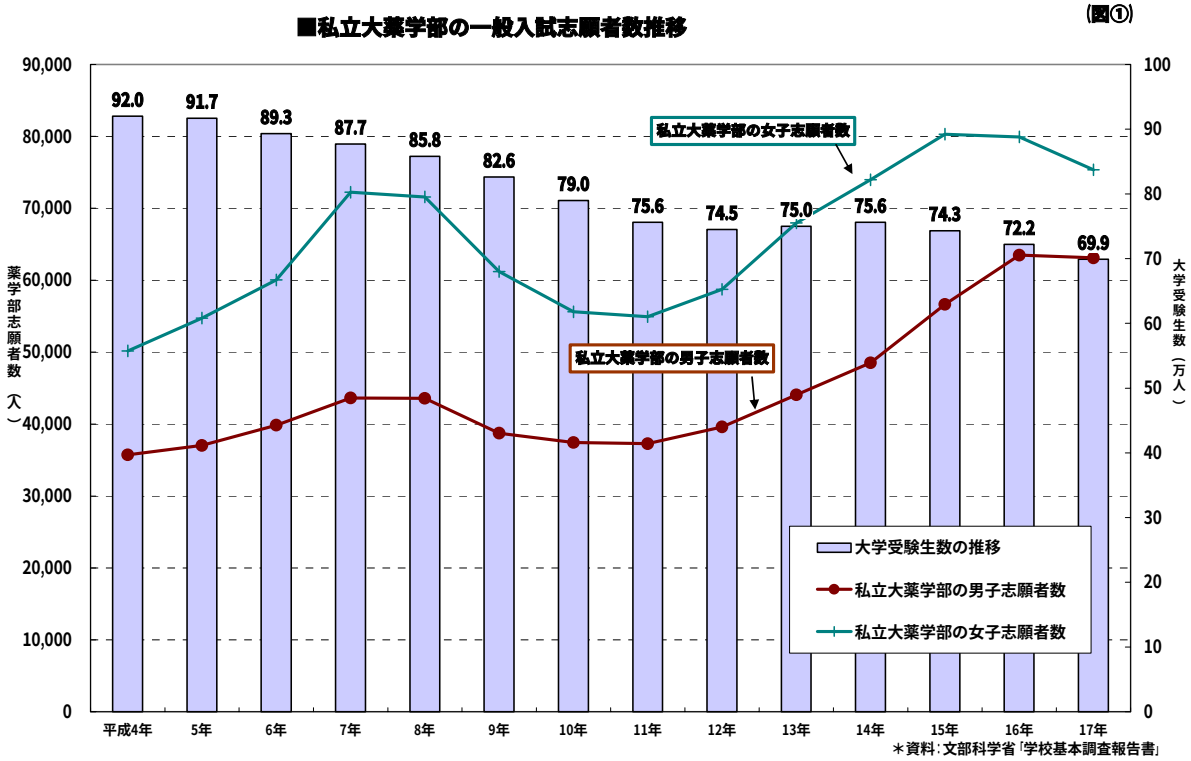
◆推薦入試ですでに大幅減の前兆

私立大薬学部の一般入試志願者数（男子・女子）と、大学受験生数の推移を比較すると（ｐ.２の**図①**を参照）、11 年～16 年の５年間で、受験生数の増減に関わりなく、薬学部志願者が急速に増加したことがわかる。他の学部系統と比べて就職状況がよく、しかも国家試験の合格率（卒業者含む）がほぼ 80%前後で安定していることが、資格志向の強い受験者層（とくに理系女子）の心を捉えたとみられる。また、文部科学省の規制緩和で、15 年度から薬学部増設ラッシュが始まり、受け入れ先が拡大したことも高人気を支えた。

しかし、６年制化を直前に控えた 17 年入試では、４年間で薬剤師の資格が取れる最後のチャンスだったにも関わらず、志願者は 16 年比で４％減少した。

そして 18 年入試の前哨戦として、17 年秋に行われた公募制推薦入試において、薬学系の志願者数は国公私立大合計で 25%減。すでに人気急降下の前兆は現れていた。おもな大学を見ると共立薬大 45%減、大阪薬大 18%減、近畿大－薬 20%減、神戸薬大 20%減など軒並み大幅減。一方で合格者数は全体で 12%増加し、倍率（志願者数÷合格者数）は 5.2 倍→3.5 倍とダウンした。

(c)2006 旺文社 教育情報センター



◆「６年制化」以外にも複雑な要因

この激減ぶりは、①18 年度入学者からの「６年制」化（薬剤師養成コースの修業年限を４年→６年に延長）が、学費負担増（延長の２年分と実習費の増加）もあって、本来薬学部志望だった理系女子と保護者から敬遠されたのが最大の要因だ。ある高校では、薬学部志望者は例年に比べ半減したという。文部科学省調査による 17 年度初年度納付金（私立大）の平均額を見ると、薬学部の平均は約 226 万円と、理科系（医･歯以外）の平均 149 万円に比べ、際立って高い。２年の延長は、保護者にさらに厳しい負担を強いることになる。

加えて、②「薬剤師余り」が囁かれ、修業年限が伸びる割に卒業後の就職状況が不透明なこと、③４年制時代の高倍率に対する警戒感、④年限延長で浪人回避の意識が強く働き志望校選びが慎重になった、⑤６年制学科の薬剤師養成に特化する姿勢に対し、進路を制限される不安感を抱いた、等の要因が複合的に作用した。

私立大の場合、６年制と併存する４年制学科が不人気で、中には“ 全入状態 ”に近いケースもみられた。定員が少ない上、薬剤師の資格取得が事実上困難など、卒業後の進路が見えにくいことが要因とみられる。

薬学部の６年制コースでは、５年次に５ヶ月間の臨床実習（病院･薬局）が義務付けられている。その前に「共用試験」（全国共通の適性試験）をクリアする必要があるので、入学者の学力向上のためか入試科目を増やしたり（例：北里大－薬のセ試利用で理科１→２科目に）、選択幅を狭めたり（例：昭和薬大の一般Ⅰ･Ⅱ期で理科を「化学・生物から１科目選択→化学必須」に）する大学もあり、これも敬遠材料となったようだ。

◆実質倍率も大幅ダウン

18 年度は、高崎健康福祉大・松山大など５大学で薬学部が新設された他、６年制化に伴い定員

(c)2006 旺文社 教育情報センター

を増やした大学もあり、薬学部全体の定員は「17 年 10,065 人→18 年 10,991 人」と１割近く増えた。こうした定員増による志願者分散もあり、既設の薬学部では入学手続率が読みづらく、志願者大幅減でも合格者は前年並みかそれ以上に出すケースが目立った。４月中旬現在で受験者・合格者まで判明した薬学部を見ると、実質倍率（受験者数÷合格者数）は次のようにダウンしている。

北海道医療大－薬 4.5 倍→2.7 倍、東北薬大 5.3 倍→3.1 倍、国際医療福祉大－薬 5.6 倍→2.5 倍、城西国際大－薬 7.8 倍→3.2 倍、北里大－薬 6.2 倍→4.3 倍、昭和大－薬 6.3 倍→5.6 倍、昭和薬大 9.1 倍→6.0 倍、東京薬大－薬 4.6 倍→3.3 倍、東京理大－薬 4.4 倍→3.6 倍、星薬大 7.4 倍→5.0 倍、金城学院大－薬 3.7 倍→2.6 倍、京都薬大 3.7 倍→2.4 倍、大阪薬大 4.1 倍→2.5 倍、近畿大－薬 13.1 倍→6.1 倍、神戸学院大－薬 7.6 倍→3.4 倍、神戸薬大 3.7 倍→2.6 倍、福山大－薬 4.0 倍→1.9 倍、福岡大－薬 6.3 倍→4.3 倍など（学部単位：一般入試合計。17 年→18 年）

高校の先生からは「昨年までは３～４校受けて１つ合格すればよい方だったが、今年は１人で４校合格した生徒もいた」との声もあり、倍率面での易化を裏付ける。ただし入学手続率は、昭和薬大でアップ（31%→34%）、大阪薬大でもほぼ前年並み（31%→30%）など、伝統校では比較的良好だったようだ。

◆私立大「薬学部敬遠組」の流出先

大量に発生した私立大の「薬学部敬遠組」は、どの分野へ流出したのか？ 大学の入試担当者や、高校の先生方の話を総合すると、次のような図式が考えられる。

(1) 従来の薬学部志望者のうち、高学力で医療への目的意識が高い層は、同じ６年制である医・獣医へ流出した模様。予備校では成績優秀な女子の「薬→医」への志望変更が相次いだという。

(2)「薬を作る」研究者を目指す層は従来通り「学部４年＋大学院修士課程２年」で済む、国公立大薬学部の４年制学科か、私立大の理・農へ流出した。６年制学科は「薬を使う」教育中心で、しかも大学院進学の場合「学部６年＋大学院博士課程４年」と 10 年かかるためだ。特に東京農大は、セ試新規参加に加え、一般入試が１回の受験で複数学科の志望が可能になったことから「薬学部敬遠組」が大量流入した模様。

(3) 資格志向は強いが修業年限の延長を敬遠した層は、４年間で国家試験受験資格が取れる医療・看護（特に理学療法）や食物・栄養系（特に管理栄養士）へ流出した模様。医療･看護で相次いだ学部増設も「薬学部敬遠者」の受け入れ先となった。

◆薬剤師需要は６年後も続く!?

薬学部人気低下の背景には、受験生や保護者が抱く“出口”への不安もある。「２年間延び、学費負担も増えるのに、増設ラッシュで“薬剤師余り”も囁かれている。就職は大丈夫なのか？」との声は多い。こうした課題について、大学側に取材を試みた。

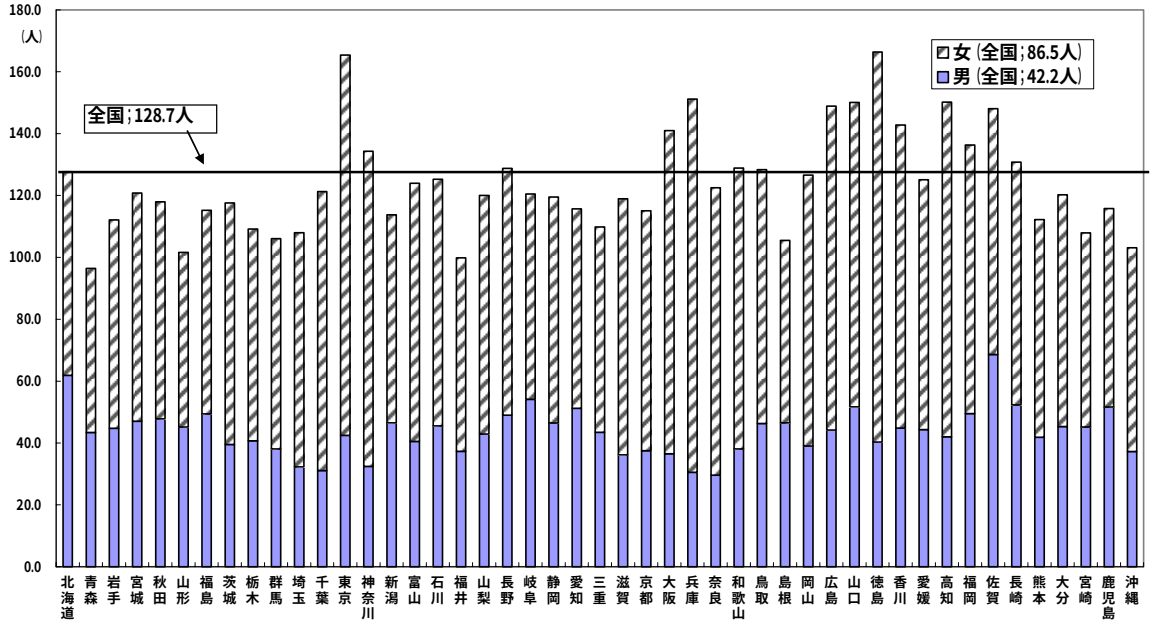
昭和大薬学部の山元俊憲教授は、「６年制でレベルアップした薬剤師の需要はむしろ高まる」との見方を示す。「市中の調剤薬局の役割として、従来の医師の処方箋に基づく調剤に加え、予防医学など地域住民のヘルスケアが求められるようになります。今後、医師に意見を言える質の高い薬

(c)2006 旺文社 教育情報センター

剤師による“かかりつけ薬局”の存在はますます重要になるでしょう。チェーン展開しているドラッグストアでも、薬剤師によるヘルスケアを前面に押し出す企業が出てきています」と語る。

また、人口10万人当たりの薬剤師数も、都道府県によって偏りがあり（**図②**を参照）、都市部以外では薬剤師不足も生じているという。さらに、「病棟薬剤師を目指す学生の場合、就職希望が大規模病院に集中し、中・小規模の病院は薬剤師を確保したくともできない」状態なのだという。薬剤師の活躍する場は、未だ開拓の余地が残されているようだ。

■薬局・医療施設に従事する都道府県別薬剤師数（人口10万人に対する） **（図②）**

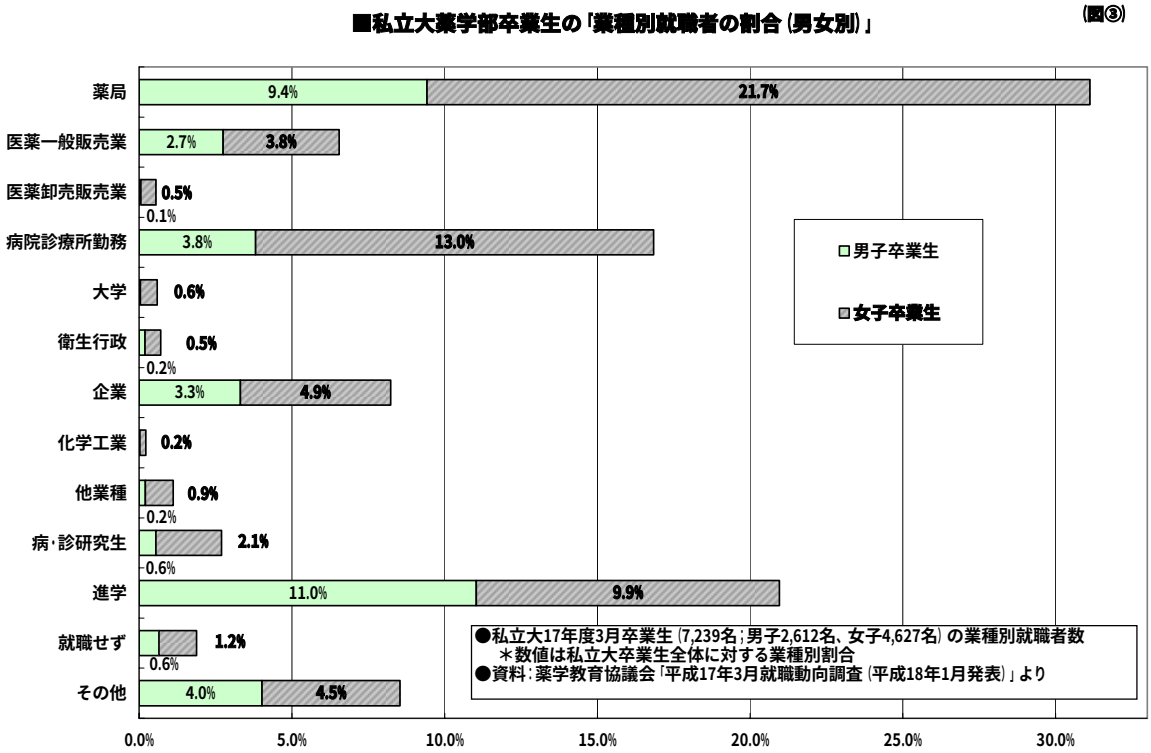


（厚生労働省平成16年12月31日現在）

昭和薬大の神崎愷(やすし)教授は「最後の４年制卒業者が出てから２年間の空白期間もあり、６年制卒業者はほぼ10年後までは売り手市場」とみる。「入学当初の学生にとって、将来の進路は病院・薬局・研究職以外は念頭にありませんが、実際には薬学部卒業者は多様な進路先を選択しています（ｐ.５の**図③**を参照）。最近は、製薬会社のＭＲ（医薬情報担当者）やＣＲＣ（治験コーディネーター）に就く卒業生も増えています。ＭＲの場合、現在のところ薬剤師は全体の約３割程度ですが、薬科大卒業生を優先して採用する企業もあり、６年制になるとシェア拡大が見込まれます。ＣＲＣは新薬認可申請のための臨床試験を行う職種なので、６年制卒業生で研究職志向の強い人に向いていると思います」と語る。

こうした薬学部生の多様な進路可能性を生かすためには、「受験生の意識改革につながる広報が、大学にとって重要になってきます」と戸田潤教授は語る。「オープンキャンパスや体験入学などで、薬剤師の実際の姿を説明し、受験生が抱くイメージとのギャップを解消することが大切」という。

(c)2006 旺文社 教育情報センター



◆19 年入試は固定層中心に落ち着く？

それでは、19 年の薬学部入試はどうなるのか？ 昭和大の佐藤誠入試担当課長は「18 年度の６年制化で薬剤師を目指す強い意志を持った受験生が残り、資格取得が主目的のバブルな層が消え、本来の姿に立ち返ったと考えています」と語る。医学部志望者のように、高校１～２年の頃から意識が高いコアな受験者層とみられ、薬学部全体の志願者数は 18 年並みか微減に留まりそうだ。ただし、19 年度も私立５大学（岩手医大・いわき明星大・兵庫医療大・姫路獨協大・安田女大）で薬学部（６年制）の新設が予定され、定員は 700 人ほど増える。また、セ試利用入試の導入（福山大－薬、松山大－薬など）や負担減（大阪薬大のセ試Ｃ方式で国語を除外）など入試改革も予定され、近隣の既設校は影響を受け、志願者大幅減のケースもあろう。

(c)2006 旺文社 教育情報センター

◆国公立大薬学部　18年一般選抜確定志願状況（東大－理２を除く）

旺文社　教育情報センター

大学名	学部名	日程	18年志願者	17年志願者	指数	18年国試合格率	備考（18年入試変更点など）
北大*	薬	前期	191	189	101	69.47%	２次の英語でリスニング廃止
		後期	213	142	150		２次の面接を廃止
東北大*	薬	前期	210	258	81	65.42%	20年度から後期日程の募集を廃止予定
		後期	186	223	83		
千葉大*	薬	前期	538	577	93	76.15%	
		後期	167	183	91		
富山大*	薬	前期	228	234	97	70.50%	旧富山医薬大－薬。セ試科目を負担増（前期：5教科6科目→5教科7科目、後期：3教科5科目→5教科7科目）
		後期	213	108	197		
金沢大*	薬	前期	171	203	84	64.55%	２次の理科の選択から生物を除外
		後期	126	182	69		
京大*	薬	前期	184	222	83	58.73%	19年度から後期日程の募集を廃止予定
		後期	131	151	87		
阪大*	薬	前期	300	296	101	56.25%	
		後期	127	67	190		
岡山大*	薬	前期	188	121	72	81.00%	ＡＯ入試を新規実施し、後期日程を廃止
		後期	0	139			
広島大*	薬	前期	251	192	131	80.26%	医学部総合薬学科を改組し、学部に昇格
		後期	98	53	185		
徳島大*	薬	前期	373	517	72	81.63%	
		後期	328	355	92		
九大*	薬	前期	140	176	80	60.95%	19年度から後期日程の募集を廃止予定
		後期	51	76	67		
長崎大*	薬	前期	185	227	81	74.04%	薬科学科(４年制)でＡＯ入試を新規実施
		後期	217	118	184		
熊本大*	薬	前期	324	279	116	65.04%	創薬･生命薬科学科(４年制)は前期のみ募集
		後期	168	189	89		
岐阜薬大(公立)*	薬	中期	1,340	1,569	85	75.51%	セ試科目を負担増（5教科6科目→5教科7科目。理1→2科目）。２段階選抜を新規予告
静岡県大(公立)*	薬	中期	846	1,042	81	79.19%	セ試科目を負担増（5教科6科目→5教科7科目。理1→2科目）
名古屋市大(公立)*	薬	中期	1,263	1,320	96	59.84%	
合　計			8,757	9,408	93		

<注1>＊＝6年制･4年制併設　<注2>「指数」は18年の対17年比　<注3>「18年国試合格率」は既卒も含んだ合格率。なお、東大－薬は50.91%(参考)

(c)2006 旺文社 教育情報センター

◆私立大薬学部　18年一般入試志願状況（４月中旬までの判明分）

旺文社　教育情報センター

大学名	学部名	方式	18年志願者	17年志願者	指数	18年国試合格率	備考（18年入試変更点など）
北海道医療大	薬	一般前期	463	848	55	81.03%	
		セ試前期	251	338	74		
		一般後期	83	230	36		
		セ試後期	20	29	69		
北海道薬大	薬	一般	367	893	41	86.32%	福岡会場を廃止
		セ試	278	392	71		
東北薬大*	薬	一般前期	887	1,548	57	74.95%	定員増(360人→380人)。セ試前・後期を負担増(4→5科目。理1→2科目)
		一般後期	562	1,394	40		
		セ試前期	418	741	56		
		セ試後期	40	67	60		
奥羽大	薬	一般一期	388	780	50	17年設置	
		一般二期	65	364	18		
国際医療福祉大	薬	一般前期	626	1,357	46	17年設置	定員増(150人→180人)。新規セ試参加
		一般後期	97	341	28		
		セ試	264	0	新規		
高崎健康福祉大	薬	一般A日程	405	0	新設	18年新設	
		一般B日程	62	0			
城西大*	薬	一般Ⅰ期	979	3,143	31	74.66%	薬学科で一般Ⅱ期、薬科学科で一般Ⅱ・Ⅲ期を新規実施
		一般Ⅱ・Ⅲ期	665	141	472		
		セ試Ⅰ期	626	1,273	49		薬はセ試Ⅱ期を実施しない
城西国際大	薬	一般1期	678	1,498	45	16年設置	
		一般2期	189	587	32		
		一般3期	78	329	24		
		セ試	188	588	32		
千葉科学大*	薬	前期A方式	765	1,016	75	16年設置	定員減(200人→140人)。新規セ試参加
		前期B方式	266	660	40		
		一般後期	33	332	10		
		セ試	150	0	新規		
北里大*	薬	一般	1,542	2,098	73	84.97%	４年進級時に学科決定（６年制・４年制）。セ試利用を負担増(5→6科目。理1→2科目)
		セ試	606	1,099	55		
共立薬大*	薬	一般前期	1,383	1,676	83	87.16%	定員増(200人→210人)。一般・セ試とも調査書点数化を廃止。一般前期で特待生制度を導入
		一般後期	750	774	97		
		セ試	684	856	80		
昭和大	薬	一般1期	1,086	1,571	69	79.92%	学外試験場を新設（福岡）
		一般2期	369	582	63		
		セ試	476	456	104		理の選択に物理・生物を追加
昭和薬大	薬	一般Ⅰ・Ⅱ期	2,312	4,875	47	81.36%	一般Ⅰ・Ⅱ期の理が「化学必須、生物選択不可」に。公募制推薦を新規実施
		セ試	573	1,302	44		
東京薬大	薬	A方式セ試	1,245	1,452	86	67.72%	※男子部・女子部の別あり
		B方式	1,870	2,410	78		
東京理大*	薬	A方式セ試	1,137	1,484	77	81.19%	定員減(200人→180人)。B方式で学外試験場を新設（札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡）
		B方式	2,083	2,240	93		
東邦大	薬	一般	1,003	1,402	72	83.39%	
		セ試前期	725	808	90		負担減(4→3教科。国を除外)
		セ試後期	57	128	45		負担増(3→4教科。国を追加)
日本大	薬	一般	1,316	2,009	66	75.91%	
星薬大*	薬	A方式セ試	693	1,318	53	82.57%	Ｃ方式(4教科型)を廃止
		B方式	1,906	2,943	65		
武蔵野大	薬	S・A日程	2,471	2,767	89	16年設置	
		セ試ABC	1,164	867	134		
明治薬大*	薬	一般B方式	2,798	4,092	68	85.75%	
		セ試A・C	1,711	1,887	91		
新潟薬大	薬	一般Ⅰ期	668	1,562	43	82.53%	会場増設(高崎・仙台・福岡)。募集人員減(100人→90人)
		一般Ⅱ期	87	242	36		
		セ試前・後期	309	393	79		セ試の募集枠拡大(10人→20人)、後期を新規実施
北陸大	薬	A日程	865	2,805	31	72.53%	定員減(460人→306人)。Ｃ日程を新規実施
		B・C日程	181	544	33		
愛知学院大	薬	前期A・M	802	2,165	37	17年設置	前期Ｂを廃止
		後期	161	482	33		
		セ試	212	0	新規		新規セ試参加
金城学院大	薬	前・中期	576	1,035	56	17年設置	一般中期・後期で学外試験場を新設(東京・大阪・福岡)
		一般後期	74	273	27		
		セ試前・後期	112	0	新規		新規セ試参加
名城大	薬	A・B方式	1,732	2,253	77	81.33%	Ｃセ試前期を負担増(4→5科目。理1→2科目)、Ｃセ試後期を新規実施。公募制推薦を新規実施
		Cセ試前期	454	940	48		
		Cセ試後期	40	0	新規		
京都薬大	薬	Aセ試前期	947	1,207	78	77.39%	
		B方式	1,513	2,054	74		試験日を繰り上げ（2/11→2/3）
		Cセ試後期	65	107	61		
同志社女大	薬	一般前期	1,156	809	143	17年設置	試験日自由選択制を導入、試験会場を増設(3→15)
		一般後期	418	406	103		負担減（3→2科目）、学外試験場を新設（11会場）
		セ試前・後期	231	0	新規		新規セ試参加
大阪薬大*	薬	F・G方式	1,706	2,323	73	82.03%	４年進級時に学科決定（６年制・４年制）
		セ試C方式	620	1,088	57		
近畿大*	薬	前期A・B	1,843	2,873	64	88.82%	定員増(150人→180人)。セ試前期を負担増(3→4教科。国を追加)
		一般後期	361	1,044	35		
		Cセ試前・後期	245	327	75		
摂南大	薬	A・AC・B・BC	2,426	2,557	95	81.65%	ＡＣ・ＢＣ日程(一般・セ試併用)を新規実施
		MC日程	38	21	181		
		C日程セ試	839	735	114		5科目型→3科目型・4科目型の2方式に分割・軽減

(c)2006 旺文社 教育情報センター

◆私立大薬学部　18年一般入試志願状況（４月中旬までの判明分）

旺文社　教育情報センター

大学名	学部名	方式	18年志願者	17年志願者	指数	18年国試合格率	備考（18年入試変更点など）
神戸学院大	薬	A・B日程	1,922	2,662	72	85.24%	定員増(210人→250人)
		C日程	328	565	58		
		セ試	360	497	72		
神戸薬大	薬	一般前期	1,306	2,210	59	79.10%	一般後期を新規実施
		一般後期	282	0	新規		
		セ試	523	549	95		
武庫川女大*	薬	一般A・B	950	1,858	51	82.19%	定員増(180人→250人)
		一般C	188	388	48		
		D・Eセ試	140	207	68		
就実大	薬	一般前期	478	880	54	15年設置	
		一般後期	38	349	11		
		セ試ＡＢＣ	173	303	57		セ試Ｃを新規実施
福山大	薬	前・後期	395	951	42	90.76%	
松山大	薬	一般前・後期	599	0	新設	18年新設	
第一薬大	薬	一般合計	698	738	95	34.12%	定員減(260人→180人)
福岡大	薬	一般	1,681	2,856	59	81.25%	定員増(180人→230人)
		セ試	376	566	66		
崇城大	薬	一般前期	544	767	71	17年設置	
		一般後期	112	305	37		
		セ試	232	0	新規		新規セ試参加
合　計			11,325	16,651	67		

<注1>＊＝6年制・4年制併設　<注2>「指数」は18年の対17年比　<注3>「18年国試合格率」は既卒も含んだ合格率。

(c)2006 旺文社 教育情報センター